

平成31年

なかに

1月

～私達の中谷、「今」。
そして未来へ～

発行者：中谷自治センター
センター長：渡辺 光一
電話番号：0247-26-1457
FAX：0247-26-3068

中谷自治センターだより

<今月の予定>

日	月	火	水	木	金	土
	1 元旦	2 年末年始	3 年末年始	4 ・仕事始め式 ・新年互礼会	5	6
6	7	8 ・ニコニコ会打合せ(3班) 19:00	9	10 ・高齢者運動教室 9:00	11 ・パソコン教室 13:30 ・子育てサロン 9:00	12 ・親と子の読書会 16:00
13 ・いしかわスキップ広場 9:30 ・上双里どんど焼き 9:00	14 成人の日	15 ・ニコニコ会1月例会(3班) 9:30	16	17 ・議会報告 町民の意見を聞く会 19:00 ・高齢者運動教室 9:00	18 ・防犯パトロール 17:30 ・パソコン教室 13:30 ・シニアスクール 19:00 ・子育てサロン 9:00	19
20 ・いしかわスキップ広場 9:30 ・レディースセミナー	21	22 ・双里区新春懇談会 19:00	23 ・体育協会講演会(酒井俊幸氏) 18:30	24 ・高齢者運動教室 9:00	25 ・中谷地区新年互礼会 19:00 ・子育てサロン 9:00	26
27 ・いしかわスキップ広場 9:30	28	29	30 ・中谷長寿会連合会新年会 11:00	31 ・高齢者運動教室 9:00		

おかげさまで 30年7月11日で開店三周年

店頭販売 第一に!



手作り
惣菜・弁当
オードブル

食彩 あすか

水・木・金
11:00 ~ 17:00



予約電話・ファックス 0247-26-8588 (水・木・金 午後)

・ニコニコ会運営者慰労会、寒そばまつりもあります 日程は決まり次第連絡

31年 新年のあいさつ

中谷自治センター長 渡辺 光一他職員一同

明けましておめでとうございます。

昨年は自治協議会になって1年目の年でしたが、各事業共どこおりなく実施できました事は、地域の皆さまのご協力のたまものだと感謝申し上げます。主役の地域の皆さんの事業等への積極的参加よろしく願いいたします。自治センターにおきましても、自治協議会が設立した関係で文庫指導員の吉田真澄さんが生活支援コーディネーターに異動、文庫指導員に遊佐礼子さんが採用となり4名体制となりました。今まで以上に地域の皆さまが気軽に立ち寄れる場、また、気持ちよく使用して頂けるよう昨年以上に努めてまいりますので、今後共ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

地域の皆さまの新しい年の、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のあいさつといたします。



☆石川町第6次総合計画の住民説明会☆

11月27日、塩田町長以下役場各課長が列席、第6次総合計画の中谷地区への説明会が開催された。担当箇所長毎の説明を受けた後、質疑に入りました。消防団員が町外に努めていて、火事現場に出動できなかった事はなかったか。また、団員の確保に困っていないか。道の駅の計画は大変むすかしく簡単ではない、大部分の道の駅は赤字ではないのか。町の良い所のPRが不足しているのではないかと等々の筆問があり有意義の時間であった。ただ残念であったのは地区住民の参加者が少なかった説明会であり、もっと多くの地域住民皆さんに聞いてほしい内容であった。

☆福祉部会企画「終活」講演会☆

11月28日、ベストファーム郡山の岩崎剛士先生による、始めよう 終活 人生100年、楽しむための講演会を開催しました。残りの人生を自分らしく、楽しい人生を送るための「終活」①エンディングノートとは、(知っている人80%、書いたことがある人10%)②医療・介護について(尊厳死宣言公正証書の作成、ケアマネージャーとの打合せ、後見人制度の利用)③終の棲家について(定年後の住まいは住宅に住み続けるか、サ高住・有料老人ホーム・グループホーム・特別養護老人ホーム等の選択肢がある)④簡単ではない死後の話(改葬 お墓の引越し、遺産相続でもめている人80%)について、どうしても暗くなりがちな話をユーモアを交えて、楽しく話していただきこれからの人生の中で大変役立つ話を聞くことができました。



☆まちづくり部会先進地視察研修☆

12月9日、まちづくり部会にて、先進地宮城県丸森町大内地区を視察研修をしてきました。大内地区は中谷と比較すると、面積は2.4倍あるが、人口は80%(≒2,400名)、世帯数は80%(≒800世帯)の地区である。大内まちづくりセンターにおいて大内地区協議会 矢吹会長より大内地区協議会の活動状況の説明をうけました。H22年度より地区公民館をまちづくりセンターに改め、まちづくりセンターを各自治組織に指定管理され(窓口業務を受託しており)地域住民のためのためには、まちづくりセンターはより身近な場所になっている。いきいき交流センター大内(直売所)農村レストラン「味の里」と地域住民の雇用の場も創出している。中谷としても取組めるところは、取組んで行く事になる。

☆中谷長寿会連合会12月例会☆

12月18日、中谷地区長寿会連合会にて双里普門寺、清水元龍和尚の法話を聞きました。初めに「かいぎょうげ開経偈」を全員で3回唱和し本題に入る。三界萬靈(欲界、色界、無色界)施餓鬼会等において連綿と続いていられるご先祖様のおかげ、今の私たちがあることに感謝、合掌・・・かわかんじょう川灌頂(死者を成仏させるために卒塔婆を川に流す行事)。因み灌頂とは、灌頂には結縁灌頂、受明灌頂、伝法灌頂がある。墓石の上から柄杓で水をかけることも灌頂という。来年の亥年について、通常十二支の中で第12番目に数えられる。前は戌、次は子である。心願れる話を聞くことができました。



楽しく子どもクリスマス会

一足早いクリスマス会を12月16日(日)、親と子の読書会の皆さんが主体となり親子64名の参加にて開催された。

工作の体験で「まつぼっくり」を使って、クリスマスツリーを作った。幼児から小学生の皆さん素晴らしい作品を作りました。全員でのジャンケンゲームでは、優勝者にはメダルとお菓子がプレゼントされた。3チームに分かれてポーリングゲームを楽しみ、最後に手作りカードでビンゴゲームを楽しんで、ビンゴ達成者順にサンタさんから自分で選んだぬいぐるみ等のプレゼントを受けた。



中谷の民話 《昔話》

せいげんつあまの事

谷地字竹の花部落の奥まった小高い所に観音様がまつられている。正しくは「正慶寺観音」というが訛って「せいげんつあま」とか「せいきち観音」などと呼んでいる。この観音様の由緒は不詳であるが、こんな言え伝えが残されている。

その昔、今から三百年位前のことだったという。秋も迫し迫った木枯らしの吹く夕方一人の年老いた旅僧が、披労困憊の極度に達したか今にも倒れんばかりの姿である農家の戸口に立って食物を乞うたという。農家の主人が出てその様子を見るにけさは破れ、草履のは切れ目は凹んではやこの世の人とも思いぬ程の乞食坊主に見えたが、よく見ると眼光うるわしくどことなく気品のある僧であった。主人は気の毒に思い、早速わが家に招き入れお湯を使わし、雑煮をごちそうした。飢餓に貧した僧の有難さはこの上なく、ボツボツと自分の過去の物語りを語り始めたという。その語るところによると、この僧は或る有名な寺の住職をしていたが寺中に争いごとが生じ、その責任を負わされてその寺を追い出されこうして地方を行脚して露頭に迷っているとの事であった。主人はそうした事情に深く同情し手厚くもてなし一泊させ旅の疲れを癒してやった。翌朝旅立ちに先立って老僧は肌身離さず持参した一体の観音像を取り出して『この観音様はさる寺のご本尊様であって追い出される時密かに持って来たものである。この観音様を信仰すれば家内安全にして家運隆昌すべし。とくにお産のときこの観音に詣でれば無痛安産すること疑いなし。』『ここの坪内(部落)の人々の人情厚きにいたく感心しこの観音像をさずけるべし。』といて御本体を主人に預けいずこともなく風のように旅去っていったという。この農家は現在の小湊勇

寿氏の祖先であった。氏の祖先は早速御堂を建てて観音様を安置したのが清慶寺観音である。記録によると元禄十一年戊寅歳(1698)に堂を建て天明元年壬寅歳(1781)に改築し、その後数回改修復して今日に至っているという。